

様式 4

平成 23 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取工業高等学校

学校長 山 内 有 明

評 価 日	平成 24 年 2 月 23 日 (木)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況		
○授業改善の取り組みは授業公開を実施し、他教科の教員も交えての意見交換が役立つと思う。鳥工では授業改善がどうであったか聞かせて欲しい。特に、言語活動の解釈や対話のある授業の工夫とかを聞かせて欲しい。		○公開授業後のアンケート実施、管理職との反省会等に取り組んできた。キーワードは「対話のある授業」である。先進校視察、校外研修、校内の公開授業を通じ教員が主体的に改善に向けて取り組むこと、地道に授業を改善することが大切だと再確認している。あらためて公開授業後のアンケート、事後反省会の実施と充実に努め、授業改善を推進していきたい。
○確かな学力に関して、保護者アンケートにある「教員は分かりやすい授業に努めていると思いますか」に対してパーセンテージが低くなっている。「わかる授業」の探求や創造は教師の最大の責務である。しっかりと「わかる授業」をしてほしい。		
○教員のアンケートの「授業改善している」との割合と、生徒との間の意識が乖離しており、自己満足になっているのではないか。授業アンケートの改善策でも科によって温度差がある。この点を各教科で議論してほしい。		
○ 図書館の利用冊数が増加しているとのことは大きなことであり、良いことだ。次の課題は中身の問題と感ずる。		○朝読書が 2 年目に入り、定着してきている。図書館だより等を通じ、推薦図書を案内し読書内容の充実をめざしていきたい。
○人権教育の校外研修の参加状況がやや低いということだが、一人ひとりが意識してこの研修だけは参加するといった意識を持って欲しい。		○研修会の案内の充実、工夫とともに、参加しやすい環境整備に努めたい。
○基礎になるのは評価項目 2 番の「豊かな人間性の育成」だと思う。毎朝、交通指導しているが鳥工の生徒に声をかけると返事が返ってくる。準備をしていればできるが、何気ない機会でも返事が返ってき、「おせ」になっていると感じる。		○「あいさつ、作法、人の話を聞く」は相手があって自分がどう接し、周りとの人間関係をどう築くかである。自立するときに必要なことだと思う。そういう態

○「5 S」、「あさひ」の取り組みは深く捉えると本当に意義深い学校目標でもある。「豊かな人間性の育成」の①で「C」の評価がついているが、「5 S」、「あさひ」の取り組みがなされているということであれば、一人一研修の目標が達成できていなくても、もう少し評価を高くしてもよいのではと思う。

○教育相談のことで、保護者アンケートの「学校は、生徒の心身の悩みに関わる相談について、適切に対処していると思いますか」の項目がすごく気になる。学校組織としていろいろな相談方法や相談機会など選択肢を増やすなど、パイプを太くする方策を取らないと評価が上がらないのではないかな。

(2) 説明・公表について

○他校の例であるが、上手に学校を宣伝している。テレビや新聞を利用して学校を宣伝してはどうかと思う。宣伝も非常に大切だと思う。メディアには雪かきなどでも取りあげられる。メディアに取りあげられると励みになったり繋がりになる。

○もっと鳥工の良さや活動を知らしめて欲しい。そうすることで中学生の見方も変わる。現状では大学への進学意識が高く、高校から大学・専門学校へ行くというイメージしかない。理数工学科ではこういう形で進学できるという話をする生徒が違う視点を持つ。その辺りをどのように伝えるか、伝えきれていない現状がある。例えば鳥工の学校新聞が中学校に張ってあっても良いのではないかな。

○自由記述で学校評価アンケートへの意見があるが、このように回答を返すのはすごいことで、他校ではやっていないのではないかな。学校運営の透明性と説明責任を果たす、あるいは保護者の意見に対して真摯に耳を傾けてている姿勢がよく表されていて良い。

○ファクシミリ文書に、「鳥工では「5 S」、「あさひ」を実践しています」との旨が記載されており、メッセージ発信や課題解決に取り組む姿勢が表れており大事なことである。

2. 学校運営への提言

○企業経営者としてどういう生徒を受け取りたいか、素直な生徒、大きな器で人の話を聞ける生徒が欲しい。

度であれば授業もきちんと受けるであろうし、何のために自分が向上していくのかも分かると思う。

継続して取り組み、広く浸透させていきたい。

○学年、科、関係分掌との連携を密にし相談体制を充実させるとともに、教育相談活動について生徒、保護者への周知、徹底を図ってきたい。

○鳥工はそういう面は控えめであった。テクノボランティア、部活動等での頑張りを廊下へ掲示し、校内では紹介している。今後は様々な機会を通じ中学校、地域への情報提供、発信に努め、本校の取り組み、生徒の活躍を紹介していきたい。

○引き続き頂いた意見をしっかりと受け止め、説明責任を果たし、改善に努めていきたい。

○インターンシップ、デュアルシステム、産業教育懇話

そういう生徒は技術力を高めることができる。社会や企業には様々な山がある。これをどう乗り越えるか、考え、行動できる生徒を育ててほしい。 ○自治会、地域という視点では、「思いやり、活気、にぎわいのある健康な津ノ井」を4本の柱として取り組んでいきたいと思っている。その思いに協調できる子供になってくれればよい。あいさつもしてくれるようになったという地域の声もある。地域も見守っているのががんばっていただきたい。 ○保護者として学校の情報が入ってこないとの声を聞くが、いろいろな取り組みを保護者に伝え切れていないのが残念だと思う。 ○大企業の生産拠点の海外移転、産業の空洞化はますます進む。国内の生産拠点をどう維持するかになると、「高度化」ということになるのではないか。企業の求めるハードルも高くなり、人間的な総合力を求められるが、技術面が高度化するにしても、基礎教育がしっかりしていないといけない。そこがしっかりしていれば、人間として花開くこともある。最近はあるてがわれることが多いが、自分の道は自分で切り拓くといった力・覚悟が大切。悲壮感を植え付けることも必要ではないか。 ○いろいろな取り組みがなされている。教育の取り組みは、動機付けやきっかけ作りであろうと思う。これらの取り組みはあくまで手段であり、目標ではないと思う。取り組みが有効に機能するかどうかは職員がいろんな立場で関わるのが大事。職員が一つになって目標に向かっていって欲しい。	会等の取り組みを通じ教育内容の改善に努めていきたい。また、「5S」、「あさひ」の取り組みの意義を理解させ、自立に向けた「人間力」の育成に取り組みたい。 ○PTAとの連携を密にし、ホームページ、携帯メール等も活用し、学校情報の発信に努めていきたい。 ○「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」を重点目標として取り組んでいる。社会情勢が変化しても、この重点目標が教育の根幹をなすものと考え、教育に取り組んでいきたい。 ○教育目標実現に向けて、共通理解を図り、教育実践に取り組んでいきたい。
---	---